

CASBEE™ 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	介護老人保健施設あじさいガーデン伏見	階数	地上5F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、防火	平均居住人員	460 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年1月 予定	評価の実施日	2011年2月15日
敷地面積	5,269 m ²	作成者	
建築面積	844 m ²	確認日	2011年2月15日
延床面積	3,316 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 **Q1のスコア= 3.4**

Q のスコア= 3.1

Q2 サービス性能 **Q2のスコア= 2.9**

Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア= 3.0**

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー **LR1のスコア= 3.6**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア= 3.1**

LR のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア= 3.3**

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>介護老人保健施設の増築、改修。</p> <p>既存施設の階層構成等を踏襲し、施設基準を満足するよう拡張する。</p> <p>内外部デザインについても既存にならう。</p>	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>各療養室には個別パッケージエアコンによる空調方式とすることで、室温の制御(温度設定、冷暖房選択等)を可能としている。また、外気導入量は1人あたり30m³/hを確保し、一部の諸室を除いて外気処理空調機を採用す</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>井水を雑用水(便器洗浄水)に利用することで、信頼性の向上を図っている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>排気場所への配慮や全熱交換器(排熱回収)を採用することで、建物外の暑熱環境を緩和している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>既設と連携した無駄のない設備増強計画を構築。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水に留意し、ハロン消火ガス等の使用を避ける計画としている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>十分な駐車スペースを確保し、廃棄物保管庫は静汚の区別をつけ分別できるだけの容量を確保している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される